

国際サービスシステム メンテナンスニュース

VOL.4

2000/9/30

国際サービスシステム(株)

エンジンオーバーヒートの話

今回も高額修理ベスト3に入るエンジンオーバーヒートの話です。
エンジンオーバーヒートも日常点検やメンテナンスでかなりの部分防止できます。
現在オーバーヒートでエンジンを修理する主な要因として

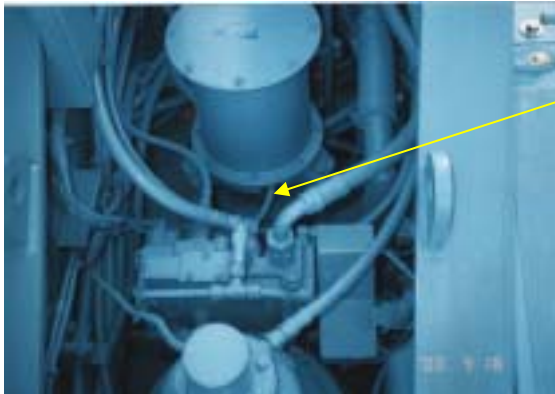
1. ラジエーター水漏れによるもの(ラジエーター本体・ホース・ウォーターポンプ・温水ヒーター関係・・・)
2. ファンベルト切損によるもの
3. シリンダーヘッド関係不具合によりもの

まだ他にも違う要因で故障する事例はありますが、多いものが上3項目です。

ラジエーター水漏れに関する注意事項

昔の機械はエンジン周辺の水漏れに注意し点検をしていれば、ある程度故障を防止できたのですが、
現行機はラジエーターの水をキャブ内部まで循環させ暖房用として使用したり、リターダブレーキ冷却等にも
使用しています。

したがってエンジン周辺だけの水漏れ点検をしていたのでは、ダメなのです。



写真は巡回中心部のものですが、
こんなところまで、ラジエーターの水は循環
しています。

ファンベルト切損による事例

エンジンを止めずに昼食をとり、機械に戻ってみると
エンジンが停止しており再始動ができなかった。
国際サービスを呼び点検した結果。
ファンベルトが切損しファンが回らずエンジンがオーバーヒート
してしまった。概算修理費用はピストンライナーが損傷し
約100万円かかった。

このようなファンベルトを使用していたら
切れてもあたりまえです。
又ファンベルトは定期的に点検調整を必要とする箇所です。

ファンベルトの調整をする場合もちろんエンジンを停止し
エンジンが冷えている時実施してください。
熱い時実施するとやけどをします。
調整方法については、取り扱い説明書を参照ください。
又調整が難しい時、国際サービスにご相談ください。

ラジエーターの水が吹き返す！

シリンダー内圧縮圧力が、なんらかの不具合でウォーターラインに
漏れ出し逆噴射のようにラジエーターキャップ付近からラジエーターの水が
吹き出す現象で、やがてラジエーターの水が無くなりエンジンがオーバーヒートします。

防止方法

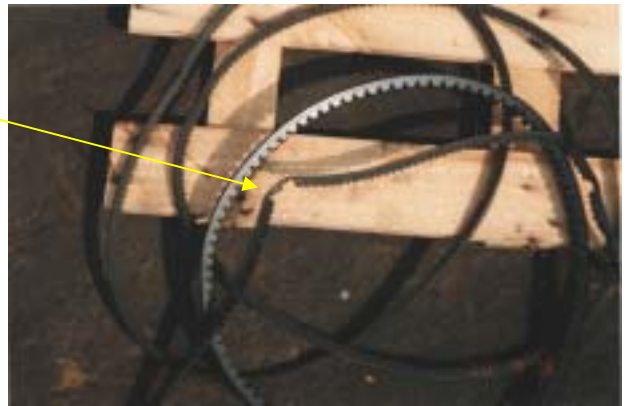
上記1.3項目はラジエーターの水量が極度に不足し発生します。
ラジエーターの水量をこまめに点検する事！
水量が減少するようであれば、まず漏れている箇所を点検してください。
くれぐれも水漏れ点検は、エンジン周辺だけ点検していたのでは、ダメです。
それと当然の事ですが、走行中・作業中は水温計・水量警報等に
注意してください。

又定期交換部品は必ず交換する事。

ラジエーターホース・リターダホース・ファンベルト等・・・。

その他の注意事項

1. 機種により水漏れ防止剤の使用を禁止しています。
使用する時はご注意ください。
2. 漏れが発見しにくい箇所としてウォーターポンプがあります。
ウォーターポンプシャフトにガタ付きを発見したら交換をお願いします。



以上 ご不明な点、分からない事がありましたら国際サービスにご相談ください。